

第1学年 図画工作科学習指導案

研究主題：「自ら考え、伝え合い、学びを深める児童の育成」
～ICT機器の活用を通して～

低学年分科会 目指す児童像：「表現したり、伝えたりすることを楽しむ児

1 題材名 「くしゃくしゃだいへんしん」

2 単元の目標

知識及び技能	・色薄紙に触れることを通して、そこから生まれる形や色などに気付いている。
思考力・判断力・表現力等	・くしゃくしゃにした色薄紙の形や色、触った感じなどをもとに表したいことを見付けて、自分の見方・感じ方を広げている。 ・友達と写真を見せ合う活動を通して、造形的なよさや面白さに気付いて、感じ取ったり考えたりしながら、自分の見方・感じ方を広げている。
学びに向かう力、人間性等	・つくった作品を見せ合ったり、よさを見付けたりしながら作品を見ることに楽しんで取り組もうとしている。

3 本単元における研究主題に迫るための手だて

(1) 効果的な ICT 機器の活用の工夫

色薄紙は、繊細で長期間の展示には向かないため、写真に今の形を記録することが望ましい。タブレットが自分の作品を表現する手段の一つであるということを感じることができ、活用方法を考える素地となる。

(2) 伝え合う力を育む指導の工夫

発表する際は、電子黒板に写った自分の作品を見せながら発表できるので、言葉だけで伝えるよりも自信をもって伝えることができると考えた。また、みんなで同じ写真を見ることができると、驚いたり、納得したりという思いに共感し、楽しみながら鑑賞したり、思いを伝え合ったりすることができる。

発表する児童には、教師が思いや意図を引き出す問いかけや考えを価値付ける言葉掛けを行い、見ている児童に鑑賞の視点を示すなど、活発に意見の交流ができるようにする。

(3) 学びを深める指導の工夫（「振り返り」等）

第1・2時の作品作りの時間では、色薄紙の性質を生かしながら、「くしゃくしゃしてから広げる」「ねじる」「裂く」「包む」「握る」などの技法を使ってさまざまに操作し、できてきた形からどんなものが作れそうか考え作品を作った。

第3時（本時）の鑑賞・振り返りの時間では、「いちばんがんばったところ」を児童に聞き、使った技法を引き出しながら作品を発表させる。電子黒板に写真を表示し、児童を電子黒板の前に立たせることで、指で示したり、拡大したりしながら詳しく話すことができるようにする。

4 単元の指導計画（全3時間扱い）

次	時	目標	○主な学習内容、学習活動 □ICT機器の活用（児童）	●指導上の留意点 ■ICT機器の活用（教師） ☆評価【方法】
1	1	くしゃくしゃにした色薄紙の形や色、触った	○紙をくしゃくしゃするなどの基本的な操作を楽しむ。	●どんなものが作れそうか考えを出し合い、発表し合ったことを板書して、思いつかない児童への支援へとつなげる。 ■技法の紹介、紙目の説明、参考写真を動
	2		○くしゃくしゃにした形から、どんなものができそうか考え	

		感じなどをもとに表したいことを見付ける。	る。 ○思いに合わせて、紙の操作や組み合わせ方を工夫して表す。	<u>画や写真で見せる。</u> ☆くしゃくしゃにした色薄紙から形を見つけて表す学習活動に楽しく取り組もうとしている。【観察】
2	3	自分や友達の作品を鑑賞することを通して、表したものや表し方のよさなどを感じ取り、自分の見方や感じ方を広げる。	<u>□つくった写真を写真に撮って、</u> <u>オクリンクプラスで共有する。</u> <u>□電子黒板に写し、一番がんばったところを発表する。</u> ○友達のよさを見付けながら作品を鑑賞する。	●発表には問い返しをし、どんな形から思いついたのかを発表できるようにする。 ☆自分や友達の作品を鑑賞することを通して、表したものや表し方のよさを感じ取り、自分の見方や感じ方を広げている。【オクリンクプラス・観察】

5 実践後の成果・課題

(1) 成果

①「効果的な ICT 機器の活用の工夫」

- ・一人一台のタブレット端末で写真を撮る活動は、意欲的に取り組む児童が多かった。
- ・他教科でもタブレット端末を使った学習を重ねてきたことで、カメラ機能やオクリンクプラスをスムーズに使うことができるようになるなど、タブレットスキルが身に付いてきた。
- ・間違えても撮り直すことができるため、不安を感じずに表現を楽しんでいた。

②「伝え合う力を育む指導の工夫」

- ・写真を電子黒板に映すため、言葉だけで伝えるよりも自信をもって伝えることができた。

③「日々の指導」

- ・毎週1時間必ずタブレットに触れる時間を設定した。
- ・ICT 支援員とチームティーチングの形をとり、「ちびっこビスケット」や「ビスケット」を使って、プログラミングに親しんだ。
- ・2学期から、「まなびポケット」の「ドリルパーク」で宿題を出した。そうすることで、毎日タブレットに触れる機会を作った。また、スムーズにログインする練習になった。
- ・写真を撮ることを積み重ねることで、より鮮明で角度を工夫した写真が撮れるようになった。
- ・国語の説明文「どうぶつの赤ちゃん」では、まとめの学習として、自分で動物の赤ちゃんについて調べてまとめる活動をした。本で調べずとも検索機能を使うと、すぐに写真が見られたのは効果的だった。

(2) 課題

①「効果的な ICT 機器の活用の工夫」

- ・タブレットで写真を撮ってオクリンクプラスに送信するまでに、かなりの時間を要し、鑑賞の時間を十分にとることに課題が残った。
- ・さらに鑑賞の時間を充実させるために、オクリンクプラス上では、作品の写真を見るだけとし、リアクションやコメント機能は使わない。手書きで書けるカードを用意し、文章でも表現できるようにすると、有意義に鑑賞をすることができると思う。

②「日々の指導」

- ・タブレット本体に重量があり、児童にとっては負担だったため週に一回学校への持参とした。
- ・文字を入力する際に、タイピングではなく、手書き入力や音声入力を使用した。認証がうまくいかないことがあり、時間がかかった。
- ・初めの頃はログインに時間がかかり、指導時間が多く取れなかったことがあった。